

平成 30 年度 公益財団法人納税協会連合会会長賞

快適な暮らしを守るため

奈良県立奈良北高等学校 一年 川上 侑珠

炎天下の中、ゴミ収集車から作業員の方が二人、降りてきた。もう間に合わないかもしれない。私はゴミ袋を持ち、小走りで収集場に向かった。

「走らんでも大丈夫。重いやろ。」

と、声をかけてくれた。日焼けした顔からは、汗が流れ落ちていた。私は

「すみません。ありがとうございます。」

と、ゴミ袋を渡した。作業員の方は嫌な顔をせず待ってくれたのだ。とても素早く、他のゴミ袋も積み終えたところだった。作業員の一人が、私に軽く手を上げてから又、車に乗り込み、次の収集場へと去って行った。とても感じの良い方達で、心からお疲れ様ですと思った瞬間だった。

私の住んでいる町では、指定のゴミ袋を購入し、そして収集してもらっている。ゴミ袋有料化を導入することで、家庭ゴミ排出量の削減や、再資源化の推進に効果があると言われている。私の自治会では、早くからゴミ分別モデル地域となっていたので、幼い時から分別することは身につけている。

地方自治体に納める住民税は、ゴミ収集や教育、福祉、公共事業や公共施設などの行政サービスを行うために徴収されている。私達はあたりまえのようにゴミを出しているが、もしゴミ収集をしてもらえなくなるとどうなるのか。例えば、ゴミが街にあふれ不衛生になる。自治会などで民間業者に依頼をしたり、遠くのゴミ焼却所に、自ら持ち込むことになるだろう。想像するだけでもぞっとする。

快適な暮らしを守るために行われる、ゴミ収集と処理、安全を守る警察や消防など、私達の生活に欠くことができないものだ。そのすべては税金で賄われている。なにげなく歩いている道路や橋、公園や図書館、学校もそうだ。家から一步踏み出せば、もう税金に助けられていると言っても過言ではない。学校の教室にはエアコンが設置されていて、快適な環境で授業を受けることができている。この暑い中、私達のために屋外で働いている人達がいる。私は恵まれた環境の中にいることを、とても感謝している。

税金は豊かで安心して生活ができるために必要なものだ。数年後、私もいずれ納税者になる。今、支えられている自分から、誰かの支えとなれるよう、国民の一人として立派な大人になりたい。